

校内研究の成果と課題

平成26年度より、3カ年計画で「確かな学力を身につけ、意欲的に学ぶ子どもの育成」を研究主題に取り組を進めてきた。初年度は、各種調査（全国学力・学習状況調査、山梨県学力把握調査、健康実態調査）の考察結果をもとに、教師の見取りと合わせ、身につけさせたい力を明確にし、本校児童の実態を的確に把握した。各種調査の細かな考察を通して、本校児童に身につけさせたい力を明確にできたことは、確かな学力の定着への取組へとつなげられるものとなったと考える。

平成27・28年度は、窓口を国語科「書く活動」に焦点を絞り、具体的な指導のあり方を研究することによって「書く力」を育てていき、意欲的に学ぶ子どもの育成に迫りたいと考え、取り組んできた。研究の成果と課題は次のとおりである。

成果

①「書く力」を育てるための国語科の授業の改善と実践

- ・書くための意欲付けを図りながら、取材・構成・記述・推敲・交流などの指導事項を重点化して、発達段階に合わせながら工夫した学習に取り組んできた。その結果、書く意欲が増し、書くことに抵抗なく取り組む様子が見られた。また、目的意識・相手意識を持って書くようになり、伝えるために分かりやすく書くように意識している姿も見られた。
- ・授業研究を通して、学習の中で大切にしていかなければならない点として以下の7点が明確になった。①書く意欲を高めるための場の設定をする。②書きたいことを明確にして相手意識や目的意識を持たせる。③学習の流れを視覚化して見通しを持たせる。④成果の見える学習を取り入れて達成感を持たせる。⑤スモールステップでの学習計画をする。⑥取材から構成までの工夫をする。⑦推敲や交流の場の指導・支援の工夫をする。

②研究をささえる日常の取組（継続的なスキルの育成の工夫）

- ・各ブロックで児童の実態に合わせて、「基礎・基本的なスキルを身につけること」に取り組んできた。継続したことで、書く量も増えてきた。週末作文、文法事項や漢字など日常の取組を地道に続けることが「書く力」につながっていくことが分かった。

③学習習慣・生活改善に関して家庭との連携を図りながら児童の学習習慣を確立する。

- ・がんばりカードの取組や自主学習の紹介、家庭学習の手引きなどの啓発により、少しずつではあるが、家庭での学習習慣が付き、工夫した自主学習に取り組みだした児童もいる。

課題

- ・手立ての工夫により、ある程度決まった形式の中では、書けるようになってきているが、自由な発想での記述や自分の書いた文章を読み返すことに課題が残った。良い表現方法を紹介、全体で共有して、学習を進める機会を設けていきたい。また、日頃の学習活動や友達との交流を通して、書いたら読み直す習慣づけや表記上の間違い正すことを繰り返し指導していく必要がある。
- ・学習習慣の定着は、児童の主体的な取組と各家庭での支援が土台となる。より推進するために、家庭学習の取り組みの具体的な紹介や教師の励ましなどを続け、今後も各家庭へ協力を呼びかけていきたい。
- ・これまでの研究の成果を生かし、日常的な学習活動や家庭学習への取組など無理のない範囲で、継続していく方法を考えたい。